

令和5年度 学校評価報告書



越前町立宮崎小学校

目 次

ページ

◆スクールプラン	．．．．． 1
◆評価の方法	．．．．． 2
◆年間自己評価書 総括表	．．．．． 3
◆具体的項目別評価表	
主体的な学びづくり	．．．．． 4～5
創造的な活動づくり	．．．．． 6～7
共に歩む教職員集団	．．．．． 8
◆基礎資料(アンケートデータ)	．．．．． 9
◆学校関係者評価書	．．．．． 10



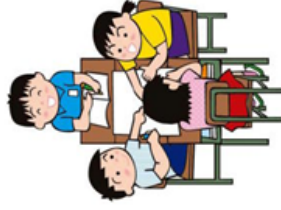
すべての子どもたちの可能性を引き出す 個別最適な学びと協働的な学びの実現
越前町の学校教育方針
越前町の学校教育目標
～個性と協働が共存する学校教育～

学校教育目標

自ら学ぶ 共につくる

＜学校経営の重点目標＞

- 1 「児童がつくる」創造的な活動
- 2 「児童とつくる」主体的な学び
- 3 「共に歩む」教職員集団



PDCA

魅力ある学校づくり

PDCA

創造的な活動づくり 児童が主体となる学校生活 健やかな心と体づくり

- ① 「学校が楽しい？」に「当
てはまる」と答える児童
を70%以上にする。
- ② 「みんなで何かをするの
は楽しい？」に「当ては
まる」と答える児童を
80%以上にする。

- 1 主体的に考え、すすんで活動する。
- 2 試行錯誤する場と機会の保障。
- 3 みんなでつくる安全・安心な学校。
- 4 自らつくる健康な心と体、健康な
生活。

＜合い言葉＞ すすんで学ぶ みんなとつくる

＜育成をめざす資質・能力＞
知識及び技能
思考力、判断力、表現力等
学びに向かう力、人間性等

主体的な学びづくり

授業改善による確かな学力の育成をめざす
カリキュラムマネジメントにより教育課程を改善する

- ① 「授業がよくわかる？」に「当
てはまる」と答え
る児童を60%以上にする。
- ② 「授業に主体的に取り組
んでいる？」に「当ては
まる」と答える児童を
60%以上にする。

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業
研究。
- 2 学びを振り返り、学びを確かめ共有する。
- 3 教科領域等をつなぎ、学びをつなぐ学習計画。
- 4 地域に学び、地域にかかわるふるさと学習。

家庭・地域との連携・協働

- 願いや思い・課題を共有し、評価・改善する。
- 地域の資源を生かした学びを共につくる。
- 宮崎中との交流や学びの共有。

願い

- ・ 創造性や主体性を伸ばし
たい。
- ・ 安心して学校生活を楽し
んでほしい。
- ・ 変化する社会に適応でき
るたくまさを育ててほ
しい。

共に歩む教職員集団

心身ともに健康で、生き生きと働く

- ① 「主体的に学び協働できた？」「目標・
目的を思い直し、よりよい授業・活動づ
くりをめざした？」に「当てはまる」と
答える教職員を80%以上にする。
- ② 時間外勤務時間を月平均45時間以下に
する。
- ③ 年休平均取得日数を年間11日以上にす
る。

- 1 主体的な校内研修や日常的な交流で学び
合う。
- 2 課題をふまえて、目標・目的を明確にし、
改善のために協働する。
- 1 心身の健康やワークライフバランスを意
識して働き方を調整する。
- 2 長期休業中に7日以上年休を取得する。

PDCA

評価の方法

評価の方法について

- ① 本年度目標の達成状況については、児童対象にアンケートをとる。
 - ② 具体的方策の取り組み状況については、教職員対象にアンケートをとる。
 - ③ 上記①②の結果と児童の様子を総合的に判断し総合評価とする。
- ※アンケートは、1（肯定的）、2（おおむね肯定的）、3（やや否定的）、4（否定的）の4段階で答える。

評価基準について

・総合評価

	A	B	C
目標の達成状況	目標を達成できている	目標は達成できていないが、達成に近い	目標を達成できず、改善の余地が大きい

・児童アンケート

	A	B	C
目標の達成状況	数値目標を達成できている	数値目標は達成できていないが、達成に近い	数値目標を達成できず、改善の余地が大きい

・教職員アンケート

	A	B	C
目標の達成状況 (めやすとする肯定的回答 (1と2の合計)の割合)	目標を十分達成できている (90%以上)	目標をおおむね達成できている (70%以上90%未満)	達成できていない (70%未満)

評価の時期と改善について

- ・本年度の取り組みの評価として、2学期末に児童・職員に対してアンケート調査を実施し、その結果や児童の様子をふまえ、3学期及び次年度に向けての改善策を立てる。

令和5年度 年間自己評価 総括表

中期重点事項	具体的項目	本年度目標	具体的方策	総合評価
主体的な学びづくり	カリキュラム・授業改善による確かな学力の育成 授業改善による確かな学力の育成 カリキュラム・授業改善による確かな学力の育成	①「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。	1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究 ・ 道徳の授業を中心に各教科の「見方・考え方」を働かせているかを意識する。 2. 学びを振り返り、学びを確かめ共有する ・ つけたい力に向かって、児童自身が学びをつなぐことができる「課題設定」と「自己評価」を行う。 ・ 子ども発の課題設定をした単元構成を一つ以上実践する。 3. 教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画 ・ 道徳を中心とした年間の全体計画(別業)を各学年で作成していく。 4. 地域に学び、地域にかかわるふるさと学習 ・ 地域と関わりの深い総合的な学習の時間の内容を各教科と関連付けて効果的に行う。	B
		②「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。		
創造的な活動づくり	児童が主体となる学校生活 児童が主体となる学校生活 児童が主体となる学校生活	①「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童を70%以上にする。	1. 主体的に考え、すすんで活動する 2. 試行錯誤する場と機会の保障 ・ 学校行事や縦割り班活動、委員会、係活動等を通して、児童のアイデアを十分に引き出し、実現しようと努力する活動の工夫をおこなう。 3. みんなでつくる安全・安心な学校 ・ 毎月の生活目標において、「重点的な取り組み」について学級で話し合い、振り返ることで、よりよい学級・学校づくりへの意識を高める。 ・ ポジティブ教育を充実させ、互いに認め合える人間関係づくりに努める。 4. 自らつくる健康な体、健康な生活 ・ 自分の目標に向かって運動を続け、粘り強く挑戦できる活動の工夫をおこなう。 ・ 家庭と連携し、児童自らが自分の生活を見直し、健康への意識を高められるような働きかけをおこなう。	B
		②「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童を80%以上にする。		
共に歩む教職員集団	心身ともに健康で、生き生きと働く教職員 心身ともに健康で、生き生きと働く教職員 心身ともに健康で、生き生きと働く教職員	①「主体的に学び協働できた?」「目標・目的を問い直し、よりよい授業・活動づくりをめざした?」に「当てはまる」と答える教職員を80%以上にする。	1. 主体的な校内研修や日常的な交流で学び合う。 2. 課題をふまえ、目標・目的を明確にし、改善のために協働する。 3. 心身の健康やワークライフバランスを意識して働き方を調整する。 4. 長期休業中に7日以上年休を取得する。	B
		②時間外勤務時間を月平均45時間以下にする。		
		③年休平均取得日数を年間11日以上にする。		

具体的項目と目標、具体的方策と評価

中期重点項目	主体的な学びづくり	総合 評価	B
	授業改善による確かな学力の育成 カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善		
本年度目標	①「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。 ②「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童を60%以上にする。		
目標設定の理由	本校児童の多くは素直で、与えられた課題に対して丁寧に一生懸命取り組むことができる一方、常に課題の提示や指示を待っている様子が見受けられる。 しかし、変化の激しいこれからの社会では、子どもたち自身が自分の力で生き抜くための力、いわゆる「生きる力」を身につけることが求められている。この「生きる力」の一つである「確かな学力(基礎的・基本的な「知識・技能」に加え、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現力」を含めた幅広い学力)」を育成するためには、主体的・対話的で深い学びを実現することが必須である。そのための授業改善を常に求めていきたい。 また、主体的・対話的で深い学びの実現のためには、教科領域等をつなぎ、児童に学びの必然性を実感させることが最も効果的である。そのためのカリキュラムマネジメントを実践し、教育課程の改善につなげていきたい。		
目標の達成状況 (児童アンケート)	①「授業がよくわかる？」に「当てはまる」と答える児童の割合 →【71%】	評価	A
	②「授業に主体的に取り組んでいる？」に「当てはまる」と答える児童の割合 →【61%】		A
具体的方策 と 評価 (教員アンケート)	1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究	評価	
	・ 道徳の授業を中心に各教科の「見方・考え方」を働かせているかを意識することができたか →【肯定的回答100%】		A
	2. 学びを振り返り、学びを確かめ共有する		
	・ つけたい力に向かって、児童自身が学びをつなぐことができる「課題設定」と「自己評価」を行うことができたか →【肯定的回答 82%】		B
	○子ども発の課題設定をした単元構成を一つ以上実践することができたか →【肯定的回答 56%】		C
	3. 教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画		
	・ 道徳を中心とした年間の全体計画(別業)を各学年で作成していくことができたか →【肯定的回答100%】		A
	4. 地域に学び、地域にかかわるふるさと学習		
総括	・ 地域と関わりの深い総合的な学習の時間の内容を各教科と関連付けて効果的に行うことができたか →【肯定的回答 80%】		B
	・ 学校全体としては①②ともに目標値を達成することができた。教科の「見方・考え方」を働かせているかなどのどのように学んでいるかを重視した授業改善を行った成果だと考える。授業研究を通して授業のねらいを明確にし手立ての幅を広げたことや、行事を中心に教科領域をつないだことで、学びの必然性が生まれ「主体的」に取り組む、「よくわかる」ことにつながった。子ども発の課題設定をした単元構成については検討を要する。 ・ 学年別に結果をみると目標値を達成できていない学年もあった。学年によって主体的に学ぶ姿のイメージが異なり、前向きに自己評価するのが難しかったのではないかと考えられる。		
改善策	・ ①②を比較すると「主体的」でないが「よくわかる」と答える児童がいることから、今後も主体的・対話的で深い学びに向かう授業改善を進める必要があり、道徳だけでなく各教科の「見方・考え方」を意識した授業づくりの研究を行う。また、単位時間の授業研究だけでなく、単元をどのように構想するかについての研究を進める。 ・ 児童が「主体的に学ぶ」姿や、「よくわかる」姿を具体的にイメージし自己評価できるように、どんな姿を目指すのかを教師と児童が共通理解する。必然性をもって学ぶことや振り返りの意味についても、共通理解を深めることで学習を価値づけできるようにする。		

目標を達成するための具体的方策実践例

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究

道徳の授業研究において、1学期に1回「研究週間」を設定し、他学年の授業を見合う機会とした。「多面的・多角的に考えているか、自分との関わりで考えているか」という視点で児童の姿を見取り、授業研究会を行った。この取組により、学年間の系統性や道徳の授業で扱う内容項目についての理解を深めることができた。

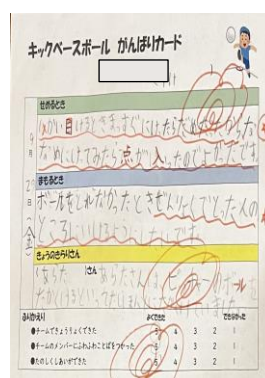
指導主事訪問に向けての授業研究では、夏季休業中に越前町教育委員会指導主事を講師に招いて道徳の研修会を行い、授業のねらいにせまるための発問を吟味することができた。さらに、模擬授業で児童の反応を予想したり、学年に応じた指導の手立てを工夫したりして授業実践を重ねることで、考え議論する道徳の授業づくりを研究することができた。



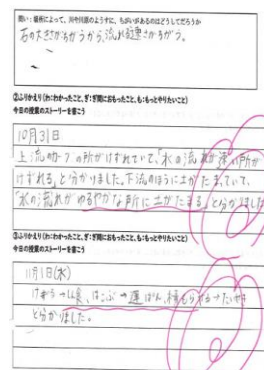
5年生 指導主事訪問授業

2. 学びを振り返り、学びを確かめ共有する

単元全体の目標を明確にした学習活動を行うため、振り返りシートを活用した。各学年の体育では、がんばりカードを活用して学びを振り返る機会を設けた。2年キックベースボールでは、攻めや守りの工夫を振り返り、次時のはじめに全体で共有した。また、今日のきりりさんを探し、良いプレーや声かけを次回に取り入れるようにし、プレーもチームワークも向上した。理科では、1単元で1枚の振り返りシートを活用し、内容のまとめりとともに授業でわかったことや疑問に思ったことを振り返り、もっとやりたいことを考えるようにした。振り返りを授業で紹介し、疑問について全体に投げかけたり広げたりして議論する場づくりを行うことで、学びを確かめ、以後の学びへの意欲につなげることができた。



体育がんばりカード



理科
単元のふりかえりシート

3. 教科領域をつなぎ、学びをつなぐ学習計画

道徳の別葉（教科・領域等との関連を示す指導計画一覧表）づくりのワークショップを行い、教育課程全体を見直し、長期間を見通した効果的な指導計画を練ることができた。2学期は体育大会などの学校行事、3学期は卒業・進級を軸にしたカリキュラムマネジメントを行い、児童にとって学びの必然性が生まれるように学びをつないでいく。

点	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳・みんなの道徳	● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳）	● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳）	● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳）	● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳）	● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳）	● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳）	● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳） ● 道徳の授業（道徳）
特別活動	● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳）	● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳）	● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳）	● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳）	● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳）	● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳）	● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳） ● 特別活動（道徳）
教科	● 教科（道徳） ● 教科（道徳） ● 教科（道徳）	● 教科（道徳） ● 教科（道徳） ● 教科（道徳）	● 教科（道徳） ● 教科（道徳） ● 教科（道徳）	● 教科（道徳） ● 教科（道徳） ● 教科（道徳）	● 教科（道徳） ● 教科（道徳） ● 教科（道徳）	● 教科（道徳） ● 教科（道徳） ● 教科（道徳）	● 教科（道徳） ● 教科（道徳） ● 教科（道徳）
総合的な学習	● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳）	● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳）	● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳）	● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳）	● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳）	● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳）	● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳） ● 総合的な学習（道徳）

道徳 別葉

5年生では、「感謝」について学んだ道徳と教科領域をつなぎ、体育大会後の6年生をたたる「なかよしタイム」や、家庭科における「先生たちに海土里みそ汁を作って感謝を伝えよう」などの実践を行うことができた。

4. 地域に学び、地域にかかわるふるさと学習

地域の名所に行きどどのような場所なのかを体験したり、地域の産業に携わる方の話を直接伺ったりと、主に総合的な学習の時間に実感を伴ったふるさと学習を実施することができた。

3年生では、宮崎地区にある地域の宝を知り、校区内外の人を知ってもらおうという目標のもと、学習を進めることができた。新聞を作成したり、劇で表現したりして、学んだことをどのように伝えるかを試行錯誤しながら学習を進めることができた。



3年生 たけのこ掘り体験

具体的項目と目標、具体的方策と評価

中期重点項目	創造的な活動づくり	総合 評価	B	
	児童が主体となる学校生活 健やかな心と体づくり			
本年度目標	①「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童を70%以上にする。 ②「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童を80%以上にする。			
目標設定の理由	本校ははじめで素直な児童が多く、ほとんどが、係や委員会活動などに協力し、きちんと取り組む。また規律面においても、従来取り組んできた「美徳の五本柱」によってしっかりと習慣化が図れてきた。一方、自ら課題を見つけ、新たな考えを提案したり、困難なことにもチャレンジしたりする態度には課題が見られる。さらに、ここ数年のコロナ禍でこれまでの活動が制限され、新たな活動を生み出す機会も奪われてきた。 よって今年度は、教育活動全般において、児童の「主体性・創造性」を育むことに重点を置き、児童のアイデアを十分に引き出すこと、また、それを実現しようと粘り強く努力できる活動の工夫をおこなう。また、その土台となる健康な心と体づくりにも引き続き取り組み、児童が心から「楽しい」と思える学校を目指す。			
目標の達成状況 (児童アンケート)	①「学校が楽しい？」に「当てはまる」と答える児童の割合 →【67%】	評価	B	
	②「みんなで何かをするのは楽しい？」に「当てはまる」と答える児童の割合 →【77%】		B	
具体的方策 と 評価 (教員アンケート)	1. 主体的に考え、すすんで活動する 2. 試行錯誤する場と機会の保障 ・学校行事や縦割り班活動、委員会、係活動等を通して、児童のアイデアを十分に引き出し、実現しようと努力する活動の工夫をおこなうことができたか →【肯定的回答 90%】	評価	A	
	3. みんなでつくる安全・安心な学校 ・毎月の生活目標において、「重点的な取り組み」について学級で話し合い、振り返ることで、よりよい学級・学校づくりへの意識を高めることができたか →【肯定的回答100%】		A	
	・ポジティブ教育を充実させ、互いに認め合える人間関係づくりに努めることができたか →【肯定的回答 78%】		B	
	4. 自らつくる健康な体、健康な生活 ・自分の目標に向かって運動を続け、粘り強く挑戦できる活動の工夫をおこなうことができたか →【肯定的回答100%】		A	
	・家庭と連携し、児童自らが自分の生活を見直し、健康への意識を高められるような働きかけをおこなうことができたか →【肯定的回答100%】		A	
	総括		・①②とも目標値に近い結果となった。行事、委員会活動を中心に、児童自らが企画・運営し、試行錯誤しながら取り組んだ成果が表れていると考える。また、教員側が児童のアイデアを十分に引き出し支援したことも、主体的な姿につながった。また、縦割り班活動や昼休みの遊びなど、異学年との交流も児童の「楽しい」という思いにつながっている。しかし、「当てはまる」と答えていない児童もあり、その原因として、友達関係に何らかの不安を抱えていたり、学習の中に、「協働する楽しさ」を見出せていなかったりするのではないかと考える。	
	改善策		・学校全体としては、児童が主体となり企画・運営する「委員会活動」「縦割り遊び」を継続しておこなう。特に、「縦割り遊び」については、年間計画の中に取り入れ、多学年が交流する機会を定期的に設ける。 ・学級においては、普段の生活はもちろん、授業づくりにおいても、児童自らが課題を見つけ、自己決定し協働できる場面を多く設ける。主体的に考え、友達と意見を交わす中で互いの良いところを認め、より理解し合えるような共感的人間関係を築けるよう、働きかける必要がある。	

目標を達成するための具体的方策実践例

1. 主体的に考え、すすんで活動する

2. 試行錯誤する場と機会の保障

委員会活動では、よりよい学校にするため、児童が主体的に活動する姿が多く見られた。「によきによき宮崎っ子プロジェクト」と称し、どの委員会も学校をよくするための活動、学校行事とリンクさせた活動に趣向を凝らし取り組むことができた。

年度始めの児童総会では、年間計画について各委員会がプレゼンテーションを行った。また、プロジェクトについて放送、チラシ・ポスターなどを用い、全校児童へ呼びかけるなど、児童の主体性・創造性を十分に生かした活動が展開できた。毎月の委員会の時間には、振り返りや活動の見直しをおこない、次の実践につなげることができた。



保健委員会 手洗いプロジェクト



図書委員会 読み聞かせ

3. みんなでつくる安全・安心な学校

毎月の生活目標や重点項目に対し、各学級で「よくできていること」「がんばるとよいこと」を話し合い、よりよい学級づくりへの意識を高めることを目指した。具体的取り組みを教室と廊下に掲示することで、他学年の取り組みが分かるようにした。また、毎月の「振り返りカード」で個々の頑張りを振り返ることができた。

ポジティブ教育については、年間計画を作成したものの、各学級での実践については、担任に任せきりになり、取り組みに差が生まれた。進捗状況の把握や推進という点においては、目標を十分に達成できなかった。しかし、体育大会後の「ピア・サポート活動」として、がんばった6年生をたたえる「なかよしタイム」を5年生が中心となって企画し、縦割り班の6年生に感謝の気持ちを伝えることができた。



縦割り班でのなかよしタイム

4. 自らつくる健康な体、健康な生活

体育的な取り組みとして、全校一斉に「1000m走」を行った。「がんばりカード」を活用し、個人に適した「めあて」を立てることができるようにした。毎年同じ距離を走ることによって経年変化が分かり、自分の成長を実感することができた。

子どもたちにとって「ハッピー週間」は、自分の生活習慣を振り返り、健康に過ごそうとする意識づけとなっている。特に2学期は、チェック項目の一つであるメディア利用について着目し、生活の中での「メディアバランス」を考えて過ごす取り組みを行った。親子でメディアバランスについてともに学び、話し合い、計画することで、各家庭の生活スタイルにあったメディア利用のルールをつくり実践した。また、PTA 健康安全委員会とタイアップし、本校のメディア利用に関する実態調査の結果を、親子で学ぶ場で報告した。



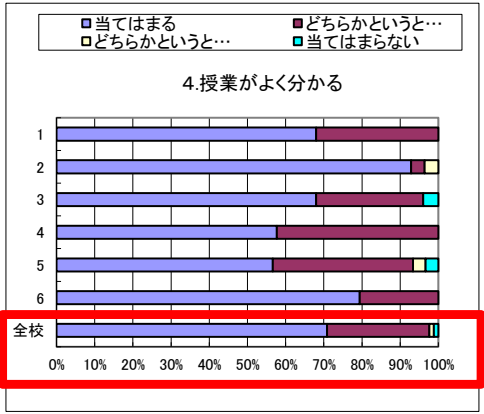
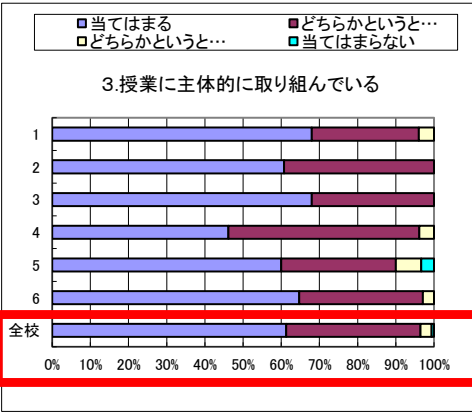
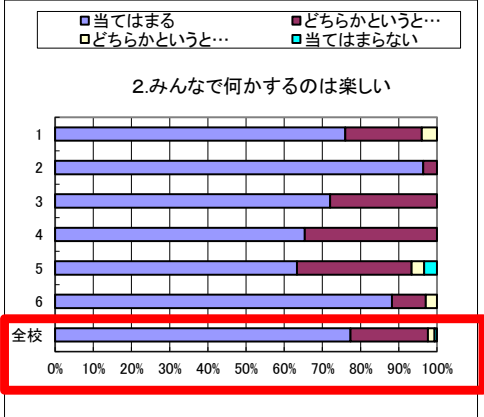
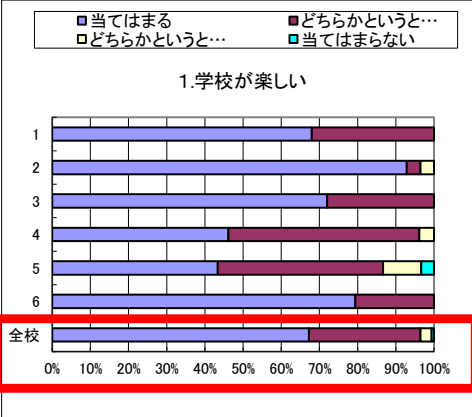
親子でメディア利用を考える

具体的項目と目標、具体的方策と評価

中期重点目標	共に歩む教職員集団	総合 評価	B
	心身ともに健康で、生き生きと働く教職員		
本年度目標	①「主体的に学び協働できた?」「目標・目的を問い直し、よりよい授業・活動づくりをめざした?」に「当てはまる」と答える教職員を80%以上にする。 ②時間外勤務時間を月平均45時間以下にする。 ③年休平均取得日数を年間11日以上にする。		
目標設定の理由	今年度、児童も教職員も「すすんで学ぶ みんなとつくる」を合い言葉に様々な活動をしていく。まずは、教職員が主体的に学んだり、協働したりしていくことを率先垂範していかなければならない。 本校の教職員はとても勤勉であり、担当職務を協働して最後までやり遂げることができる。しかし、職務遂行にあたり、必要以上に手間や時間をかけ過ぎたり、前例踏襲傾向に陥ったりすることもある。これを是正するためには、常に教育活動の目標・目的を問い直し、限られた時間の中で必要かつ有効な手立てを取るよう心掛ける必要がある。 また、全ての教育活動は教職員の健康維持が前提となる。そのために、適正な働き方を常に意識すると共に、必要な休養を適宜取っていかねばならない。		
目標の達成状況	①「主体的に学び協働できた?」に「当てはまる」と答える教職員の割合 →【45%】	評価	C
	①「目標・目的を問い直し、よりよい授業・活動づくりをめざした?」に「当てはまる」と答える教職員の割合 →【36%】		C
	②時間外勤務時間の月平均時間→【28時間52分】		A
	③年休平均取得日数 →【17日】		A
具体的方策と評価	1. 主体的な校内研修や日常的な交流で学び合うことができたか →【肯定的回答100%】	評価	A
	2. 課題をふまえ、目標・目的を明確にし、改善のために協働できたか →【肯定的回答100%】		A
	3. 心身の健康やワークライフバランスを意識して働き方を調整できたか →【肯定的回答91%】		A
	4. 長期休業中に7日以上年休を取得できたか →【取得率100%】		A
総括	・①の結果は、中間評価時より若干改善したが目標値には至らなかった。これは、多忙だったために、従来より一歩踏み込んで主体的に研究したり、協働したり、よりよい授業・活動づくりを行ったりすることができなかったためだと思われる。また、目標達成に向けて努力したが十分に満足できる域まで達しなかったと教職員が厳しく自己評価したことも、結果が低かった一因と思われる。 ・②③については、従来から推進している働き方改革等が奏功し、目標値を達成することができた。今後も、適正な働き方に対する意識を維持しつつ職務に当たることが望まれる。		
改善策	・教職員の時間的余裕の創出及び教育活動の質の向上のために、学校教育目標に基づき教育活動の更なる精選と再構築を行う必要がある。 ・教育活動の結果だけでなく過程についても積極的に評価し、やりがいを感じながら職務に当たることのできる環境(雰囲気)作りが必要である。		

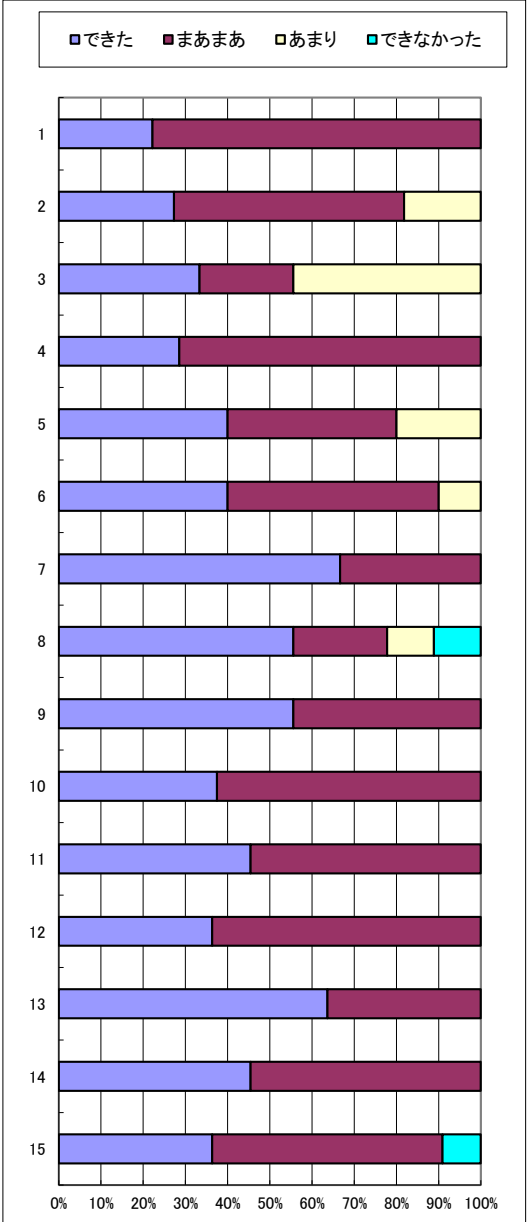
令和5年度 2学期 アンケート結果(児童対象・11月実施)

	質問内容	学年	人数				学年	%				肯定的回答
			当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない			当てはまる	どちらかという 当てはまる	どちらかという 当てはまらない		
1	学校が楽しい。	1	17	8	0	0	1	68%	32%	0%	0%	100%
		2	26	1	1	0	2	93%	4%	4%	0%	96%
		3	18	7	0	0	3	72%	28%	0%	0%	100%
		4	12	13	1	0	4	46%	50%	4%	0%	96%
		5	13	13	3	1	5	43%	43%	10%	3%	87%
		6	27	7	0	0	6	79%	21%	0%	0%	100%
		全校	113	49	5	1	全校	67%	29%	3%	1%	96%
2	みんなで何かするのは楽しい。	1	19	5	1	0	1	76%	20%	4%	0%	96%
		2	27	1	0	0	2	96%	4%	0%	0%	100%
		3	18	7	0	0	3	72%	28%	0%	0%	100%
		4	17	9	0	0	4	65%	35%	0%	0%	100%
		5	19	9	1	1	5	63%	30%	3%	3%	93%
		6	30	3	1	0	6	88%	9%	3%	0%	97%
		全校	130	34	3	1	全校	77%	20%	2%	1%	98%
3	授業に主体的に取り組んでいる。	1	17	7	1	0	1	68%	28%	4%	0%	96%
		2	17	11	0	0	2	61%	39%	0%	0%	100%
		3	17	8	0	0	3	68%	32%	0%	0%	100%
		4	12	13	1	0	4	46%	50%	4%	0%	96%
		5	18	9	2	1	5	60%	30%	7%	3%	90%
		6	22	11	1	0	6	65%	32%	3%	0%	97%
		全校	103	59	5	1	全校	61%	35%	3%	1%	96%
4	授業がよく分かる。	1	17	8	0	0	1	68%	32%	0%	0%	100%
		2	26	1	1	0	2	93%	4%	4%	0%	96%
		3	17	7	0	1	3	68%	28%	0%	4%	96%
		4	15	11	0	0	4	58%	42%	0%	0%	100%
		5	17	11	1	1	5	57%	37%	3%	3%	93%
		6	27	7	0	0	6	79%	21%	0%	0%	100%
		全校	119	45	2	2	全校	71%	27%	1%	1%	98%



令和5年度 2学期 アンケート結果(教員対象・12月実施)

	質問内容	人数				%				肯定的回答
		できた	まあまあ	あまり	できなかった	できた	まあまあ	あまり	できなかった	
1	・道徳の授業を中心に各教科の「見方・考え方」を働かせているかを意識することができたか。	2	7	0	0	22%	78%	0%	0%	100%
2	・つきたい力に向かって、児童自身が学びをつなぐことができる「課題設定」と「自己評価」を行うことができたか。	3	6	2	0	27%	55%	18%	0%	82%
3	・〇子ども発の課題設定をした単元構成を一つ以上実践することができたか。	3	2	4	0	33%	22%	44%	0%	56%
4	・道徳を中心とした年間の全体計画(別業)を各学年で作成していくことができたか。	2	5	0	0	29%	71%	0%	0%	100%
5	・地域と関わりの深い内容の総合的な学習の時間の内容を各教科と関連付けて効果的に行うことができたか。	2	2	1	0	40%	40%	20%	0%	80%
6	・学校行事や縦割り班活動、委員会、係活動等を通して、児童のアイデアを十分に引き出し、実現しようと努力する活動の工夫をおこなうことができたか。	4	5	1	0	40%	50%	10%	0%	90%
7	・毎月の生活目標において、「重点的な取り組み」について学級で話し合い、振り返ることで、よりよい学級・学校づくりへの意識を高めることができたか。	4	2	0	0	67%	33%	0%	0%	100%
8	・ポジティブ教育を充実させ、互いに認め合える人間関係づくりに努めることができたか。	5	2	1	1	56%	22%	11%	11%	78%
9	・自分の目標に向かって運動を続け、粘り強く挑戦できる活動の工夫をおこなうことができたか。	5	4	0	0	56%	44%	0%	0%	100%
10	・家庭と連携し、児童自らが自分の生活を見直し、健康への意識を高められるような働きかけをおこなうことができたか。	3	5	0	0	38%	63%	0%	0%	100%
11	・主体的に学び、協働できたか。	5	6	0	0	45%	55%	0%	0%	100%
12	・目標、目的を問い直し、よりよい授業、活動づくりをめざしたか。	4	7	0	0	36%	64%	0%	0%	100%
13	・主体的な校内研修や日常的な交流で学び合うことができたか。	7	4	0	0	64%	36%	0%	0%	100%
14	・課題をふまえ、目標・目的を明確にし、改善のために協働することができたか。	5	6	0	0	45%	55%	0%	0%	100%
15	・心身の健康やワークライフバランスを意識して働き方を調整することができたか。	4	6	0	1	36%	55%	0%	9%	91%



令和5年度学校関係者評価書

宮崎小学校

主体的な学びづくり	授業改善による確かな学力の育成 カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善	・「道徳」授業からの各教科への意識づけは、児童の「受動的に学力をつける」から、「主体的に考え、学ぶ」きっかけづくりになったと思う。 ・教科領域をつなぐことで、「なぜこの教科を学ぶのか?」「なぜ勉強する必要があるのか」をより意識するようになるのではないかなと思う。 ・道徳授業の研修会において、先生方の授業づくりに大きなプラスになったと思う。忙しい中にあっても、先生方自身も学ぶ機会があれば、より意欲的になれるのではないかな。 ・地域を学ぶこと、またそれらを表現することで、地域をよりよく理解し、郷土愛を育て、さらに学んだことをいかに表現するかを、児童みんなで学習できたことは大きい意義がある。 ・子どもが地域の方に感謝をするのではなく、子どもが地域の方から感謝される、例えば地域の課題に取り組むようなことができるとうい。 ・子ども発の課題設定について、先生方で意識（方向性）を統一できるとよい。
創造的な活動づくり	児童が主体となる学校生活 健やかな心と体づくり	・各委員会のプレゼンテーション・プロジェクト発信は、とてもよい活動だと思う。子どもたちの主体性・創造性を促すとともに、協調性や協働性も学べ、さらによりよい発信を考えることは自己表現力が豊かになり、自分の役割を認識し、自己肯定感も増すと思う。今後も子どもたちが主体となる魅力発信活動を続けていってほしい。 ・児童の「委員会活動」、「縦割り遊び」を今後も継続してほしい。 ・「がんばりカード」の活用で、自らの成長がわかり、次の目標設定につながるのでもいいと思う。「がんばる」という言葉に敏感な児童もいるのではないかなとも思った。 ・家のお手伝いをたくさんしてほしい。お手伝いをする中で、下準備や段取りの大切さが学べる。 ・美德の5本柱は社会人になっても役に立つ。学校として大切にしてほしい。 ・メディアバランスの取り組みは、PTAと協力して継続していってほしい。
共に歩む教職員集団	心身ともに健康で、生き生きと働く教職員	・宮崎小学校で働くことで、先生方の自己肯定感も高まるとよい。 ・先生同士の授業見学や研修によって、前向きな先生同士の評価ができるとよい。 ・校務支援システムの導入など、昔より負荷が減っている部分もあるが、まだまだ忙しい。これから教職員を目指す若者のためにも職場環境の改善に取り組んでほしい。 ・地域に対する学校活動の情報発信を継続してほしい。
その他 学校教育全般		・宮崎小学校はレベルの高い取り組みを行っていると感じる。今後も継続してほしいが、自己評価が厳しいので、その点は配慮されるべき。 ・多忙の中で、宮崎の子どもたちのために、努力していただいている教職員の皆様に感謝している。今後もよりよい教育環境・職場環境が維持できるよう一緒に笑顔で取り組んでいきたい。 ・作文力やプレゼンテーション力（的確な表現や表現方法）の育成に力を入れてほしい。 ・自然公園の活用を検討してほしい。